

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 12月 3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172000440		
法人名	宗教法人 真正寺		
事業所名	グループホーム ハーモニー		
所在地	小樽市長橋2丁目19番28号 (電話) 0134-33-1811		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年12月1日	評価確定日	平成19年12月20日

## 【情報提供票より】(平成19年11月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・○平成	15年	4月	1日
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27	人
職員数	27人	常勤21人, 非常勤6人,	常勤換算24	人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	3階建ての	1~3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000	円	その他の経費(月額)	水道光熱共益費20,000円		
敷金	有( )	円	○無	暖房費5,000円(10~4月)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )	円	有りの場合 償却の有無	有 / ○無		
食材料費	朝食	300	円	昼食	400	円
	夕食	500	円	おやつ	100	円
	または1日当たり		1,300	円		

### (4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	25名	男性	6名	女性	19名	
要介護1	11名	要介護2	4名			
要介護3	6名	要介護4	3名			
要介護5	1名	要支援2	0			
年齢	平均	83歳	最低	68歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三ッ山病院(内科・胃腸・循環器)、木下病院(精神科)、千葉歯科
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営母体が宗教教法人である当ホームは、平成15年に開設後、翌年デイサービスを併設した3ユニットの施設で、利用者の生活しやすさを配慮した設計で建設されたホームである。開設後4年経過しグループホームとしてのノウハウを蓄積し、季節の飾りなど装飾や誕生会など、日常的に行なわれている。管理者や職員の熱心なケアサービスにより家庭的雰囲気であるホームになっている。利用者は散歩など日常の外出のほか、温泉ツアーなど各種行事への参加や日曜日にはデイサービスの施設で展望浴場を利用したり、カラオケや麻雀を楽しむなど、ホーム内に閉じこもることなく、明るく落ち着いた暮らしをしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 利用者の権利と義務について契約書への明示、職員研修の充実、中学校や幼稚園との交流など、地域との係わり推進、利用者の積極的外出機会の創出など、前回の外部評価からの問題点と課題について積極的に改善へと取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、各ユニット毎に全員が自己の考えを記入し、これを管理者がまとめて作成し、結果はミーティングなどで検討し、地域との交流促進、適切な苦情処理、内部研修の強化など実施中である。また、ほか課題も具体的改善策を検討するなど自己評価に対して積極的に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は18年7月より地域住民代表、民生委員、幼稚園関係者の方などをメンバーとして不定期ながら開催している。会議ではホームの活動状況報告と参加者との質疑応答や意見交換がなされ、意見や要望事項についてはホーム運営に反映させるよう努めている。実施回数がまだ少なく会議内容も報告事項が主のため、今後はホームと地域との交流や認知症に関する知識の普及などに取り組むことも検討中である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からの意見や要望は、家族訪問時に職員の方から話し掛けて聞くようにしており、苦情や問題点が指摘されたときは、職員のミーティングなどで改善対策を検討し、質的レベルの高いホーム作りを目指して、ホーム運営に反映させるように努めている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 従来はホームと地域との係わりは少なかったが、運営推進会議を通して地域のホームに対する理解度が高まってきている。さらに、ホームの地域行事への参加や、ホーム行事(ホームの夏祭り)への住民参加要請、ボランティアや中学校の施設研修受け入れ、幼稚園園児によるホームでのお遊戯開催など各種取り組みが進んでおり、地域との連携強化が進行中である。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は、玄関先や各ユニットに掲示されているが、パンフレットや書類上の記載がなく、地域密着型サービスとしての理念も検討中である。	○	運営理念は、掲示するばかりでなく、パンフレットや説明書などに記載されることが望ましく、さらに、地域との係わりを重視した理念の追加を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は、新人教育で説明されており、一部職員に認識が十分でない部分もあるが、概ね管理者と職員の共有として日々のケアサービスに活かされている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	従来はホームと地域との交流は少なかったが、ホーム夏祭への住民参加、中学校の施設研修受け入れ、幼稚園児のお遊戯開催など地元との交流が深まってきている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は自己評価及び外部評価の意義を理解しており、自己評価作成は職員全員が記入するなど積極的な取り組みをしている。評価結果についてもミーティングなどで話し合わせ、具体的な改善を進めている。		

小樽市 グループホーム ハーモニー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域代表、家族代表を含めて18年7月より開催され、ホーム概要や行事の説明や参加者との意見交換がなされ、これらをケアサービスに活かすよう努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の行政担当課には管理者や事務担当者が頻繁に訪問し、各種相談や情報交換を行なうなど行政との連携が行なわれている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームから家族への報告は、家族来訪時に管理者や職員からなされ、さらに毎月郵送される「ホーム便」と担当者による個人別「おたより」によってホームでの暮らしぶりが伝えられている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からのホーム運営に関する不満や苦情は殆どないが、苦情対策委員会を設けて対処するようにしている。家族からの意見や相談は来訪時に職員から積極的に話し掛けて聞くようにし、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ディサービスを併設しているため職員の移動は若干あるが、利用者の不安やダメージが発生しないように利用者に話をするなどの努力がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の人材育成は内部研修のほかに、社会福祉法人協会等主催の研修や消防署の訓練に年間計画を立てながら参加している。さらに研修情報が職員に提供され、希望に応じて参加も可能である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当市では、地域密着型サービス事業者集団指導会議が今年2回開催され、グループホーム関連の情報交換がなされている。ほかのグループとの交流は、一部ホームの見学が実施されたが十分な状態ではない。	○	地域同業者とのネットワーク作りを行ないながらほかのグループホームとの相互訪問や実地研修などにより、職員の資質及びサービスのレベル向上を望みたい。
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規入居者に対するマニュアルも整備され、事前に家族訪問やホーム見学、ディサービスの利用などでホームに馴染めるよう配慮がなされている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と同じ目線でともに支え合う関係を大切にし、ホーム内の作業や外出をともにしない和やかな関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望は、それぞれの居室担当者が中心となって家族からの情報や利用者の日常行動を参考にしながら把握するように努めている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、居室担当者を中心としてカンファレンスが行なわれ、家族からの情報も参考にしながらミーティングで検討し、利用者の最も暮らしやすいことを基本として作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化の有無に関係なく3ヵ月毎に介護計画の定期見直しを行ない家族の承認を得ている。大きな変化があった際には病院、家族に相談しながら状態に応じて随時見直しされている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営法人は、ディサービスを併設しているため、利用者はサービス休止日の日曜日に展望風呂、カラオケ、麻雀などを楽しんでいる。さらに、病院、理美容、買物などの送迎や花見など年間行事などを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応で毎週往診のある協力病院の受診が主であるが、利用者の希望に応じて掛けの医療機関への通院も自由であり、ホームの車で送迎を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の入居時に家族と重度化時における対応を説明して同意を得ているが、重度化した際の具体的な対応策が不十分であり、全職員共有の認識までには至っていない。	○	利用者の重度化は今後一層進むため、重度化や終末期に向けた指針を作成し、事前に医療機関や家族と相談しながらその対応策を全職員が共有するよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者のプライバシーを損なわないよう日常生活支援において配慮しており、利用者の個人記録なども十分注意しながら取り扱われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれの生活ペースが異なるため、職員はホームや自分の都合ではなく、利用者のペースに合わせて、ケアサービスに努めている。		

小樽市 グループホーム ハーモニー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは職員が利用者の好みを配慮しながら検討し、ディサービスの栄養士によるチェックを受けている。食事時は職員と利用者が一緒に食事準備やあと片付けを行ない、食事中は職員が同じ食事を取りながら会話を交わしながら明るい雰囲気の中で支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2～3回午後を原則としているが、利用者の希望によって午前中に入浴を行うユニットもある。ディサービス休止日の日曜は見晴らしの良い展望浴場も利用している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、ホーム内で食事準備やあと片付け、掃除などの役割を持ったり、トランプ、編物、ビデオ鑑賞、麻雀、カラオケ、各種ゲームや畑作業を楽しんでおり、張り合いのある生活をし過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買物に外出しているが、年間行事計画により温泉ツアー、花見などを実施している。また、月に1回利用者の希望に応じた外出支援を行っており、喫茶店や食堂などに出掛けている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠はホーム1階正面玄関のみ夜間に施錠され、ユニットの入口はセンサーのみで施錠はしていない。正面玄関は押しボタンで開閉するが、行政の指導によるためやむを得ない。利用者の多くは押しボタン式開閉を理解している。		

小樽市 グループホーム ハーモニー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は消防署の指導を受けながら年2回実施し、救急救命訓練も毎月職員が交代で受けている。避難訓練は、利用者の不安を与えるため現在は実施していない。	○	地震や火災など緊急事態発生時には、利用者を避難場所へ誘導するなどの支援が必要であるが、周辺住民の協力が不可欠のため、日頃から協力を要請し、地域との連携を図ることが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分摂取は毎日把握され、栄養バランスはディサービスの栄養士によりチェックされている。また、利用者の身体状態に応じて食事内容も配慮され、一人ひとりに応じた支援がなされている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって住みやすいホーム作りを目指して設計された施設で、居間、トイレ、浴室など、共有部分もゆったりと余裕がある。壁面には利用者の手作りによる飾りや作品が貼られ、季節感のある飾りもあり、明るく家庭的雰囲気の施設となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、利用者の馴染みの調度品の持ち込み自由であり、利用者によっては仏壇なども備え付け、居心地の良い居室空間を実現させている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。